

§ 訳者まえがき (p.1-6)

\* ヴェブレンの「本能」概念

外的刺激に対する自動的な反応 = 生物学的本能概念 「向性」 (4L3)

意識性と一定の目的への適合性を備えた人間に生来的な素質・性癖 「本能」 (4L2)

§ 例言 (p.7-8)

\* キーワード Instinct of Workmanshipの意味と訳語 (7R3)

小原敬士 = 「製作〔者〕本能」……不適切 (7R5)

高哲男 = ワークマンシップ本能……暫定措置 (7R6)

松尾博 = 「職人技本能」 (7L2)

§ はしがき (P.1-2)

\* 産業的慣例と、ある文化段階を形成するに至るその他の制度的諸事実との間に見られる  
相関関係の分析 (1R2)

文化の生成とその一般的な保持においては、技術的な慣例がそれ以外での文明の範囲  
と方法を基礎づけ規制するという意味で、根底的、決定的 (1R3)

ただし、ある文明のその他の慣例が、産業技術の状態に反作用する程度を排除したり  
看過したりすることではない。 (1R5)

\* 分析の方法 (1R7)

物質科学の機械論的仮定が、現状ではこの種の科学的問題の解決に、一般に受容され  
うる見地を提供している。 (1L7)

第1章 緒論 (P.3-33)

\* 「本能」ということば (4R1)

学術的には厳密な規定性に欠ける曖昧な概念 (4R1-9)

制度の発生論的研究では習慣や因襲の成長に取り組むので「本能」という述語ほど役  
に立つものはない。 (4L7-4)

\* 「本能」について (4L3-6L1)

人間行為のそれ以上は還元できない単純な心理学的諸要素が、社会科学が対象とする  
人間行為においては、合成されて機能的諸グループに分かれる。 (4L1-5R1)

こうして相合して「本能」として分類される生得の性癖は、意識と目指された目的へ  
の適応とを含んでいる。 (5R5-L5)

「本能」とは、より狭い特殊な意味では、問題になっている本能が価値あるものとし  
る客観的な目的を自覚的に追求する行動 (6L2-1)

\* 本能的性癖に対する知性の介入 目的実現の手段と方法を複雑・多様にする。 (7R1-L4)

方法と手段の論理と装置は、習慣づけの訓練の下で、因襲的な方向に落ち込み、首尾  
一貫性のある習慣と規制となって一つの制度的性格と力を持つようになる。 (8R6-7)

習慣化された行動と思考の仕方は、……、行為原理を生むことになる。 (8R7-9)

- 慣習的な方法と手段が直近の努力目標の地位を占め、究極の目的は後景に退けられてしまう。(8L9-1)
- \* 本能的感覚の分析 (10R3-12R8)
    - 非排他性・接合・「汚染」・逆の目的 = 各本能的傾向の間の干渉 (11R3-12R1)
    - 本能は遺伝的特性 (12L9-13R1)
  - \* 人間の本能の特徴 = 曖昧さ・大雑把さ(自動的に確定された反応の欠落) (13R2-3)
    - 開かれた実験, 習慣づけ, 発明, 適応の広く柔軟な余地を職人技感覚に残す。(13R5)
    - 因襲化と悪ずれの範囲, 領域も幅広く必然的に (13R7-8)
    - 人間の諸本能の総体は個々人によって限りない多様さで変化。多様性は特に文明民族の間で顕著。(13L3-14R5)
    - とはいえ, 社会における人間の継続的生活に適した精神的特質を持つ一般的な, 人間的な型が存在する。そこからの逸脱は淘汰的排除の可能性。(14L6-2)
  - \* 淘汰的生き残りについて (15L1-17L3)
    - 未開形態での適合性 (17L2-18L9)
    - 「白人の重荷」(18L8-1)
    - 混血種からの淘汰的生育による「純粋系列」の維持 (19L7-20R3)と「混成純粋系列」の発生 (20R4-L1)
    - 人種間のわずかな偏倚が, 制度, 組織を通じて累積的に働き出すとき, 決定的な重みを持つに至る。(21L10-8)
    - これら遺伝的な精神的素質に関する人種の相違はその結果において重要。(21L6)
    - だが, 本能的洞察の力で自らを延命させた民族の例よりも, 愚鈍な制度が生活と文化を圧して勝利した例の方が多い。(22R4-6)
  - \* 職人技感覚
    - 親性性向とともに人類の福祉に貢献し, その生物としての成功をもたらすような本能的性癖の主要なものである。(22R7-8)
    - ともに多くの共通点をもち相互助長の関係 (22R8-L5)
    - 職人技本能は, 節約と効率の点で, 公益に対する親らしい心遣い(親性性向)に強く支えられているのだと考えられる。(23L5-1)
    - 錯綜と汚染……どの本能的性癖も, 本能的な生来の特質全体から孤立してその機能的内容を完成させるものではない。(24L7-25R8)
    - すべての本能的行動は知的で目的論的である。(25R9-26L1)
    - 目的論的活動の複合体における職人技本能の地位は補助的 (26R6-L6)
    - ・ その例証 (27R1-28R1) ・ 職人技本能の特徴 (28R2-29R8)
  - \* 人類の本能的性格が, 変化しつつある環境に有効に順応できる限界は, 相対的に狭く, 適応の制限はかなり厳正である。(30R3-5)